

たじみん昼話 47

批判とはポジティブなもの？

日本で「批判的」というとネガティブなイメージが強い。批判を和英辞典で調べると、「critique」となっている。大学で習ったドイツ語だと「Kritik」だ。アメリカ人の友人にLINEでこの語のニュアンスを聞いた。「critique」は、「対象を受け止めてその論理をとらえ、それに自分の意見を加える」ことを指すので否定的意味は薄く、全面的に賛成という意味の方が強いのだそうだ。同様の事をドイツ人の友人に聞いたが、やはり80%ぐらいは「肯定的」に使っているそうだ。

つまり批判的は、「全面的に意見に賛成する」あるいは「その意見に基本的に賛成だけれども、ここを加えたらもっとよくなる」という意味に使うのが正解ということだ。日本では、「文芸批評」とか「評論家」という言葉があるが、乱暴に考えると、「批判」も「評論」も「批評」も、語源的には全部一緒ということが言えそうだ。

以前、国語力を付ける読書とは批判的に読むものだと伝えた。生徒諸君の中には、これをネガティブに読むと捉えている向きが多いようだ。だが前述したことから、本来批判的に読むとは、著者の意見と自分の意見を分けて、「この人はこういうことを言うが、それについて自分はどう思うか。基本的に賛成、反対?」、「ここまで同意でこの先は意見が違う?」、そういう分類をしながら読むことを指すのだ。生徒の皆さんには、改めてそのような読書法に挑戦して欲しい。

この批判的に読むということは大切である。なぜなら、自分の考え方とその本の中に書いてあることを明確に区別することで、巷で流行っている、自己アイデンティティーの確立が可能になるからだ。